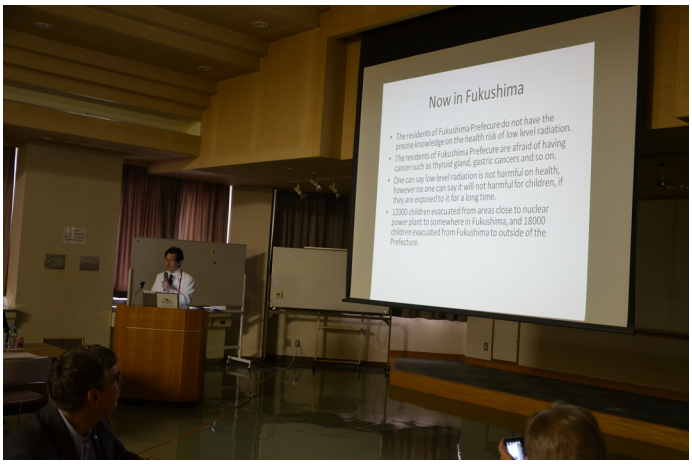
国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）は、原発事故が起きた時に、各国の赤十字がすべきことを検討する国際会議を5月14日～16日まで開催しました。17日には福島の現状を知り、現場から学べること、今後各国での備えに生かせる情報を得ることを目的に福島県を訪れました。

ﾎｰﾙﾎﾞﾃﾞｨｰｶｳﾝﾀｰを視察する IFRC 職員

訪れたのは、チェルノブイリ原発事故後の支援事業の担当者や、原発のみならず生物・化学災害等への備えを有するアメリカ、ドイツの赤十字社など12の赤十字社・赤新月社から32名。一行は福島市の除染情報プラザを訪れた後に当院のホールボディーカウンター(内部被ばくを検査するための装置)を視察しました。

また、宮田昌之副院長から東日本大震災や原子力災害に対する当院の取り組みについての説明を受けました。その後も参加者と今後の取り組みについて意見を交わしました。



宮田副院長による東日本大震災及び原子力災害に対する当院の活動の報告

終了後も多くの参加者から当院の活動について質問が寄せられました。

※ホールボディーカウンター

世界各国の赤十字社・赤新月社から寄せられた海外救援金を財源として整備されました。現在は、福島市の委託を受けて検査を実施しています。